

第11回国語ワーキンググループの議題

議題 (1)

取りまとめに向けた検討について

国語WG取りまとめ骨子案

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性①

(1) 現状の成果

ア. 現行の学習指導要領における改善事項

- 国語科では全ての学校段階を通じて以下を共通目標として整理した。
 - 国語の特質を理解し適切に使えるようにすること
 - 伝え合う力を高め思考力や想像力を養うこと
 - 国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと
- 前回改訂では、情報化やグローバル化の進展など現代的な諸課題を踏まえ、言語活動の充実を通じて思考力、判断力、表現力等の育成を一層重視する観点から、以下の力などを育むための見直しを行った。
 - 相手や目的、場面に応じて、考えを分かりやすく伝える力
 - 他者と協働して考えを深める力
 - 文章を読んで自分の考えをもつ力
 - 情報を的確に捉え批判的に吟味する力
 - 言語文化を継承・発展させる態度
- 全ての学校段階を通じて「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域における系統的指導を進め、学習過程を明確にすることで資質・能力の確実な育成を図った。特に、高等学校では、資質・能力の育成を一層確かなものとするため、科目構成を見直し、以下の科目を新設した。
 - 共通必修科目：「現代の国語」「言語文化」
 - 選択科目：「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」

イ. これまでの成果

- これらの改善により、以下の成果が得られた。
 - 話や文章に含まれる情報を理解し、自らの考えを表現する学習活動の充実
 - 伝統的な言語文化に親しむ学習の重視
 - 課題解決的な学習活動の充実
 - 高等学校における各領域の指導改善
- こうした中、PISA調査では、日本の15歳の生徒（義務教育修了段階）の読解力は概ねOECD平均水準を上回っている。

(2) 現状の課題

ア. 学習内容に関する課題

- 生成AIやSNSなどの普及による情報・メディア環境の変化も見据え、生きて働く「知識・技能」の定着に加えて、言葉を手がかりに自分の考えを深め、他者と協働してよりよい社会や文化を創造していくための資質・能力の育成が一層重要となる。
- このような中、全国学力・学習状況調査や学習指導要領実施状況調査等において、以下のような課題が見られる。（P.37～42参考資料参照）

<a.言葉で思考を整理したり深めたりすることに課題>

- 自分の思いや考えに適した言葉を用いて表現すること、話や文章の内容と既有知識等を結び付けて整理し考えることに課題がある。
- また、多様な文章に触れ自らの考えを深める読書習慣の定着や、学習の基盤となる語彙の習得にも課題がある。

<b.目的や場面に応じたコミュニケーションに課題>

- 目的や場面に応じて、話したり聞いたりして考えを整理すること、思いや考えが相手に伝わるように話や文章を構成して表現すること、対話による合意形成や相互理解を図ることなどに課題がある。

<c.目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考に課題>

- 目的に応じて文章を読み、自分の考えをもつこと、多様な情報や意見の妥当性・信頼性を確かめることなどに課題がある。
- 情報社会で必要とされる「文章を読む力」や「情報を評価・熟考する力」が十分に身に付いていない。

<d.我が国の言語文化を継承・発展させる態度の形成に課題>

- 我が国の文化としての言語の価値を理解し、言語文化を継承・発展させていく担い手としての自覚をもつことに課題があるとの指摘がある。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性②

(2) 現状の課題 (続き)

イ. 系統性に関する課題

<a.「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」の課題>

- [思考力、判断力、表現力等]の学習過程が「話すこと」「聞くこと」「話し合うこと」「書くこと」「読むこと」で異なっており、各領域の学習が個別のものと意識され、関連付けて学びを深めることが難しい実態が見受けられる。
- 各領域の言語活動例の種類を示し方が、3領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）別に整理されており、各活動で扱っている話や文章の種類を関連付けて学びを深めることが難しい実態や、目的を意識せず文章の種類ごとに活動を細分化し指導する実態が見受けられる。
- 児童生徒がどのような思考・判断・表現をする姿を目指すのかが分かりにくく、一連の流れとして“考えて・判断して・表現する”学びになりにくい。
- どの[知識及び技能]を思考・判断・表現の過程で活用することに重きを置くのか、取り立てて学習することに重きを置くのかが明確でないため、具体的な指導がイメージしづらい。さらに、言語文化の継承や価値観の形成そのものを知識・技能として身に付けたり理解したりさせる指導が不十分である。

<b.高等学校の科目編成等の課題>

- 小中学校での学びを発展させ、高等学校へと接続し、大学や社会での実践的な活用につなげていく観点から、高等学校における科目の在り方を再検討することが必要である。
- 選択科目の単位数が多く（全て4単位）、時間割編成上の制約が大きい中、以下の実態も見受けられる。
 - ① 実社会におけるコミュニケーション能力の育成を図る「国語表現」が、大学入試に繋がらない等の理由で、進学希望者が多い高校で選択されにくい。
 - ② 国公立理系では「論理国語」と「古典探究」のみの履修、私立理系では「論理国語」のみの履修にとどまる例が多く、バランスが悪い。
- 現行の必修科目では、各科目の役割や内容が必ずしも十分に整理されていると言えず、明確化した各科目で扱う教材の文章の種類と育成する資質・能力との関連が十分に意識されにくいという指摘がある。

ウ. 指導・環境面に関する課題

<a.言語能力の育成>

- 国語科で育成すべき「読む力」と、各教科で必要とされる「教科書等を読み解く力」の役割分担が十分に整理されていないことにより、各教科における「教科書等を読み解く力」の育成が不十分になっているという指摘がある。

<b.柔軟な教育課程の編成>

- 柔軟な教育課程編成を促進する方向性を踏まえ、学校の創意工夫ある実践を促す観点から、指導内容等の示し方を検討することが必要である。

<c.学習評価>

- 比較的短い単元で重点化した特定の学習過程に即して総括的評価まで行おうとすることで、「学習改善等に生かす評価」に必要な適時のアセスメントやフィードバックを行いにくくなる状況が見られる。また、単元を終えた後、事実に知識の習得を問うペーパーテストのみで総括的評価を行う実態も散見される。

<d.ICT活用等>

- GIGAスクール構想によりデジタル学習基盤が整備されたが、複数の情報を基にした思考、動画・図表の活用、文字入力など、多様なデジタルツールを生かした指導は、なお試行錯誤が続いている。また、情報過多の時代にあっては、情報を整理し、自分の考えを形成する指導の重要性が一層高まっているという指摘がある。
- ブラウザの検索結果の最上部にAIによる要約が表示される中、その内容を単純にコピー＆ペーストして、十分な思考を働かせていない実態等も散見される。このような中で、収集する情報の信頼性や妥当性を確かめた上で、それらを活用して自ら思考・判断・表現できるように指導することが重要である。

1. 現行の成果・課題を踏まえた改善の方向性③

(3) 改善の方向性

ア. 目標及び見方・考え方の在り方について

- 児童生徒が日常生活で培った言葉の経験を基盤に学びを進めるといふ教科の特性を踏まえ、教科としての一貫性と内容の系統性を明確に示す。資質・能力の柱ごとの目標は、小中高の系統性を踏まえつつ、児童生徒の発達段階に応じた力の深まりを明確にする。
- 国語における「見方・考え方」については、激しい変化が止まることのない時代を生きるために、言葉の背後にある意図や文脈を捉え、自らの思考を深めて表現することが、国語科を学ぶ本質的な意義の中核であることを端的に表すよう改善する。

イ. 内容の改善の在り方について

<a.深い学びの実現に向けて>

- 国語科における深い学びの実現に向けては、個々の学習活動に取り組むことにとどまらず、複数の単元や領域の学びを関連付けながら、話や文章の機能に応じて思考・判断・表現を働かせる学習を充実することが重要である。併せて、〔知識及び技能〕についても、その性質に応じた学習を充実する必要がある。
- 以下の改善を通して、各領域の学習過程で知識・技能を働かせながら思考・判断・表現の質を高める学びと、言葉や言語文化に関する理解を深める学びとを、それぞれの性質に応じて位置付けながら、児童生徒が自分の理解や表現を捉え直し、考えを広げ深める学習の実現を促す。

<b.知識及び技能>

- 具体的な指導がイメージしやすいように、二側面で整理。
 - ①運用しながら深める側面（各領域の学習の過程で生かし深める）
各領域の思考・判断・表現の過程で、どの知識・技能を、何のために働かせるのが明確になるように整理する。これにより、話や文章の構造、表現の仕方などに関する知識・技能を実際の話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの中で結び付けて使い、話や文章の理解を深めたり、考えを整理したり、表現をよりよしたりする学習の充実を促す。

②教養として深める側面（各領域の学習を支え文化的な知識や態度、教養として深める）

言葉や言語文化に関する知識・技能を、その意義や価値と結び付けて理解できるように整理する。これにより、言葉や文字の仕組みを知ること、古典や読書に親しむこと、文字を整えて書くことなどを、自分の考え方や感じ方、他者との関わり、社会や文化の在り方とのつながりの中で捉え、理解を深める学習の充実を促す。

<c.思考力、判断力、表現力等>

- 「何のために言葉を使うのか」という視点を明確にし、学習活動の目的を意識できるようにするため、「話や文章の機能」を軸に事項を整理し、複数の領域の単元の学習を関連付けて構成しやすくする。これにより、児童生徒が複数の単元の学習で出合う様々な話や文章を、社会的な文脈の中でどのような機能を果たしているかという観点から捉え、それぞれの機能に応じて思考・判断・表現を働かせる学習の充実を促す。

<d.高等学校国語科の科目の在り方>

- 現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、感性・情緒の両面について、バランスよく統合的かつ効果的に育成する。
 - 必修科目は科目構成を維持しつつ、更なる改善を図る。
 - 選択科目の構成や単位数については以下のとおり見直しを行う。
 - ① 現行の選択科目の中から、標準的な内容項目を抽出し、主として論理的に考える力を育成し、3領域を偏りなく学ぶ4単科目と、主として多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育み、古典と近代以降の文章を、我が国の言語文化として学ぶ4単科目を大多数の生徒の履修を想定した選択科目として新設することで、領域の学びの偏りを解消し、多様な文章に触れる機会を確保する。
 - ② その上で、上記科目の履修を前提に、より発展的に内容を焦点化して学ぶ選択科目群を設定し、生徒の興味・関心に応じた選択を可能にする。

2. 目標及び見方・考え方の在り方

(1) 目標の在り方 補足イメージ①、②-1、②-2参照

- 小中高の目標における柱書の文言を統一し、育成したい資質・能力の趣旨を端的に記載する。
- 資質・能力の3つの柱ごとの目標については、次のように大きな方向性は共通としながら、発達段階に応じて学校種ごとに系統的に書き分ける。

<a.知識及び技能>

国語の特質を理解し適切に使うことと、我が国の言語文化に親しみ理解を深めることについて、学校種に応じた生活の広がりや理解の深まりを踏まえて示す。

<b.思考力、判断力、表現力等>

論理的に思考する力、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力、他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を、教科として一貫して育成する力として小中高で統一して示しつつ、学校種ごとの発達段階に応じて示す。

※高等学校では、小中学校で身に付けた資質・能力を更に高めるとともに、卒業後も続く実社会の場において国語を活用していくことを見通した表現にする。

<c.学びに向かう力、人間性等>

- ① 学習で育みたい学びや生活に向かう態度：小学校では表現や伝え合いの過程に注意を向けること、中学校ではその過程を確かめながら捉え直すこと、高等学校では過程を吟味することに重点を置いて、学校種に応じて系統的に示す。
- ② 学習で育みたい情意・感性：「国語を尊重する態度を養うこと」を基盤として、そのために必要となる言語感覚の高まりや言語文化への関わり方について、学校種に応じて系統的に示す。

(2) 見方・考え方の在り方 補足イメージ①、②-1参照

- 現行の「言葉による見方・考え方」は、「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること」としている。
 - この趣旨を踏まえつつ、①「教科で扱う事象や対象」、②「教科固有の物事を捉える視点」、③「教科固有の考え方や判断の仕方」がより端的に伝わるよう、見方・考え方の示し方を見直す。
- ① 「教科で扱う事象や対象」については、日常生活や社会生活における他者との関わりの中で思考・判断・表現する資質・能力を育成するという教科特性を踏まえ、学習の対象を「自分や他者の言葉」と示す。
 - ② 「教科固有の物事を捉える視点」については、現行の「言葉による見方・考え方」に含まれている「対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目」する側面を位置付け直して端的に示すことが重要である。そのため、「意味や働き、使い方や表現の意図に着目」と示す。
 - ③ 「教科固有の考え方や判断の仕方」については、言葉の意味や働き、表現の意図を吟味することを通して多様な立場や考えを理解し、相手や状況に応じて言葉を丁寧に選びながら、よりよく伝え合う姿を想定し、「多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと」と示す。

3. 資質・能力の構造化のポイント

(1) 内容の表形式化 補足イメージ①参照

- 国語科は、思考力・判断力・表現力等の系統性が明確であり、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助ける構造をもつ。
- そのため、表形式で示すに当たっては、思考力・判断力・表現力等の深まりを明確にできるよう列として示し、その深まりを知識及び技能が支えながら一体的に育まれていくことを視覚的に示すことにより、学習指導への改善に資することが期待できることから、「並行パターン」で表形式にする。

(2) 高次の資質・能力の在り方

補足イメージ①、③-1～③-9参照

<ア. 示し方>

- 〔思考力、判断力、表現力等〕については、小・中学校は領域ごとに示し、高等学校は各科目別に領域ごとに示す。
- 〔知識及び技能〕については、小・中学校は、①領域ごとの内容と、②全領域で共通する内容で示し、高等学校は、各科目別に、①領域ごとの内容と、②全領域で共通の内容として示す。

<イ. 内容>

- 高次の資質・能力について、以下の2つの側面があることを踏まえ設定する。
 - ①国語科の目標や本質的な意義から演繹的に導かれる側面
 - ②個別の学習内容をより深く習得するために帰納的に導かれる側面

- 国語科の指導内容は、系統的・段階的に上の学年に繋がっていくとともに、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着と深化を図ることを基本としている。そのため、高次の資質・能力については、発達段階や校種ごとの目標に応じて、その深まりや広がり適切に表現することで、各学校の授業改善がより一層進むよう整理する。高等学校については、各科目の学習の意義を踏まえて、科目の深い学びが明確となる表現とする。
 - 「総合的な発揮」は、複雑な課題の解決に向けて、個別の思考力、判断力、表現力等を組み合わせたり選んだりして総合的に働かせた状態である。国語科では、相手や状況、目的に応じて、思考・判断・表現の力を総合的に発揮し、自分の考えや思いをよりよく伝えたり、理解や解釈したことを踏まえ自分の考えを広げ深めたりすることができる状態として領域ごとに示す。
 - 「統合的な理解」は、個別の知識や技能が相互に関連付けられて、一般化され、統合的な理解となった状態である。国語科では、知識及び技能を①運用しながら深める側面、②教養として深める側面に整理し直すことから、それぞれの側面について次のような状態として示す。
 - ①言葉の様々な意味や働き、使い方に関する知識や技能を使えば、理解・思考・表現の質を高められる。言葉の知識を、相手や状況、目的に応じて使うことで、理解・思考・表現の質が高まることを児童生徒が理解している状態。
 - ②言葉や文字の仕組み、読書、伝統的な言語文化を学ぶ意義や価値を児童生徒が理解している状態。

※高次の資質・能力の具体的なイメージは、17～25ページのとおりだが、WGでのイメージをもとに、取りまとめの趣旨を踏まえた分かりやすく使いやすい内容となるよう、引き続き文部科学省で検討すべきである。

4. 内容の改善の在り方①

(1) 内容の充実について ※総授業時数を増加させないことが前提

A. 「思考力、判断力、表現力等」の整理 補足イメージ④⑤⑥参照

- 個別の思考力、判断力、表現力等の事項を整理する際には、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域ごとの「総合的な発揮」を踏まえ、具体的な学習で、どのような話や文章を扱い、その中でどのような思考・判断・表現を働かせるのかを分かりやすく示す必要がある。
- また、実際の授業では、児童生徒が学習活動の目的を意識し、複数の単元で出合う様々な話や文章を、表面的な形式の違いにとどまらず、社会的な文脈の中で果たす主な機能という観点から捉えられるようにすることが重要である。
- そこで、学習活動の目的を意識できるようにするため、「話や文章の機能」を軸に事項を整理し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域ごとに示す。その際、学習活動の過程ごとに細分化せず、学習活動全体を通して、ひとまとまりの思考・判断・表現を深めていく姿をイメージできる示し方を示す。

話や文章の機能（一部抜粋） ※詳細はp.26

【事実や知識の整理と理解（仮称）】

事物や事象の構造・しくみ・意味・特徴・因果関係などを整理し、筋道立てて分かりやすく示すことを通して、理解を促す機能

【考えや主張の理由付けと吟味（仮称）】

考えや主張を、理由や根拠と結び付けて筋道立てて示すことを通して、判断や納得を促し、必要に応じて考えや行動に働きかける機能

【思いや経験の表出と想像（仮称）】

経験や想像した出来事・情景、思いや心情などを多様な表現の工夫によって描き出すことを通して、想像し、感じたり考えたりすることを促す機能

【協働による深化や合意（仮称）】

他者と協働して互いの考えや情報を出し合い、吟味・調整することを通して、理解や考えを深め、必要に応じて合意形成や意思決定に向かうことを促す機能

I. 「知識及び技能」の整理

補足イメージ⑦-1、⑦-2参照

- 「統合的な理解」については、二つの側面で示している。この考え方にに基づき、それぞれの側面に位置付ける内容が、対応する「知識及び技能の統合的な理解」につながるものとなるよう、現行の〔知識及び技能〕の内容を、側面①、②のうち、いずれの性質に主に重点を置くかによって再整理する。その上で、側面①を(1)運用しながら深める事項、側面②を(2)教養として深める事項として位置付ける。

※この整理は、相互に排他的な分類を行うものではなく、各事項の主たる性質や指導・評価の重点を明確にするためのものである。

- 学習の効果が高まると考えられる場合は、【分割・統合】【系統化】【明確化】の考え方により、各事項を再整理する。なお、児童生徒の学びを深める授業づくりに役立てるためには、その性質に応じた関係性や小中高の系統性が分かるように示すことが重要である。
- なお、児童生徒の学びを深める授業づくりに役立てるためには、それぞれの内容を互いに独立した個別のものとして示すのではなく、その性質に応じた関係性や小中高の系統性が分かるように示すことが重要である。そこで、上記のような整理を経て位置付ける内容については、「事項のまとまり」を設けて分類し、構造的に示す。

【分割・統合】現行の〔知識及び技能〕の事項について、その性質に応じて分割又は統合することが有効なものは、複数の事項に分けて示したり、一つの事項としてまとめたりする。

【系統化】現行では特定の校種・科目のみに示している〔知識及び技能〕の事項であっても、発達段階に応じて複数の領域の学習過程で繰り返し活用することが有効なものは、小・中・高等学校を通じた系統性を整理して位置付け直す。

【明確化】現行では〔知識及び技能〕の事項として明示していないものの、複数の領域の〔思考力、判断力、表現力等〕の事項に共通して含まれる内容のうち、それらの思考・判断・表現の前提となり、繰り返し活用することが有効な知識・技能を明確化し、〔知識及び技能〕の事項として系統的に位置付ける。

4. 内容の改善の在り方②

- また、前回改訂で改善・充実を図った語彙、読書、情報の扱い方、我が国の言語文化に関する授業改善は、全国の学校現場において進められているが、1. (2) アにおいて示した課題に見られるとおり、道半ばである。そこで、学習状況に見られる課題を踏まえ、更なる改善に向けて次のような整理を行う。

➤ 語彙

生成AIが発展する中、人間ならではの実感を伴った理解や思考、表現を支える語感を磨き、語彙を豊かにするための学習として、二つの方向性の学習を充実させる（①文脈の中で語句を「使い」ながら、主に語感を磨く学習の充実、②語句同士の関係を「理解」しながら、主に語彙を豊かにする学習の充実）。

➤ 読書

読書習慣の形成については、読書を通して楽しみながら多様な考え方に触れ、自らの考えを広げたり深めたりする経験を重ねることが重要である。そのためには、授業内外をつなぎながら、自立的な読書へと移行していく学習の積み重ねが図られるよう改善する（①読書へのきっかけの創出や動機付けを高める機会の充実、②自立的な読書への移行を支える学習の充実）。その際、司書教諭、学校司書等と連携しながら学校図書館の機能の充実やその計画的な利活用等による学校の教育活動全体における読書環境の整備を併せて進めていくことが重要である。

➤ 情報の扱い方

話や文章に含まれる情報の扱い方については、情報の扱い方に関する理解を深めるため、性質の異なる二つの力（情報と情報との関係を吟味し整理する力、情報の信頼性や妥当性を見極める力）を、発達段階に応じて系統的に育成することが重要である。このため、二つの方向性の学習を充実させる（①情報と情報との関係を吟味し整理する学習の充実、②情報の信頼性や妥当性を見極める学習の充実）。

➤ 我が国の言語文化に関する指導

言語文化の継承・発展については、特に高等学校段階の古典学習に関して、古典を身近で親しみのあるものと捉え、主体的に関心をもつことを重視し、言語文化への理解を深めるため、三つの方向性の学習を充実させる（①小中と高等学校の学びの接続強化、②文語文法及び口語訳への指導の偏りの見直し、③言語文化への理解を深める学習の充実）。

ウ. 高等学校における科目構成の見直し 補足イメージ⑧⑨参照

- 生成AIが飛躍的に発展するとともに社会の多様性と分断の危険性の双方が増すことが想定されるこれからの社会においては、自らの考えを言葉にし、論理的かつ説得的に表現し対話する力や、多様な他者の感性や情緒を理解するとともに、それらを通じて自らの思いや経験を効果的に表現する力、他者と協働して考えを深める力など、人間ならではの言語能力の育成が必要である。
- これらを踏まえ、現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、感性・情緒の両面について、二項対立に陥らず、バランスよく統合的かつ効果的に育成することを図り、以下のように見直しを行う。

＜必履修科目＞

- 現行の枠組みを維持しつつ、科目の特質に即し学習内容を目標で明確に示すことで、指導の更なる充実を図る。
- 「現代の国語Ⅰ」（仮称）は、実社会で必要な論理的思考力やコミュニケーション能力を中心に育成する科目、「言語文化Ⅰ」（仮称）は、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を中心に育成する科目として、科目の特質を目標で明確に示し、どの資質・能力の育成に重きを置いているかによって科目を分けているということを明示し、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導の充実、言語文化を継承する態度の育成等、各科目での課題改善を引き続き図る。

4. 内容の改善の在り方③

＜選択科目＞

- 論理的思考力、感性・情緒の両面をバランスよく育成する機会を確保するため、現行の選択科目（「論理国語」「文学国語」「国語表現」「古典探究」）の中から標準的な内容を抽出し組み合わせた、4単位の標準科目を2科目、現行の選択科目の中から発展的な内容を抽出した2単位の発展科目を4科目新設する。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域を偏りなく学び、主として実社会に必要な論理的思考力やコミュニケーション能力を育成する4単位科目の「現代の国語Ⅱ」（仮称）、古典と近代以降の文章を我が国の言語文化として学び、主として多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する4単位科目の「言語文化Ⅱ」（仮称）を大多数の生徒の履修を想定した選択科目として新設することで、学びの偏りを解消し、資質・能力をバランスよく育成する。
- また、標準的な科目の履修を前提に、より発展的に内容を焦点化して学ぶ選択科目である「論説と批評」（仮称）、「対話と表現」（仮称）、「文学と創作」（仮称）、「古典と文化」（仮称）を2単位で新設することで、生徒の多様な興味・関心、進路選択に応じる科目構成とする。
- 必履修科目、選択科目共に、〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の資質・能力を「話や文章の機能」によって焦点化して整理する。これにより、小・中学校における学びが基盤となって高等学校への学びに接続していることを明確にするとともに、育成する資質・能力と教材とする文章の種類との関係を明確にし、各科目の趣旨に沿った学びを充実する。
- 各科目の履修順序について、必履修科目を1・2年次で分割履修するような場合、2年次目においては、必履修科目と選択科目の標準科目を同時に履修できることとする。また、選択科目の標準科目と発展科目についても、必履修科目と同様に整理する。

- 各科目における教材の扱いについて、教材の選定に当たっては、当該科目の趣旨（どのような資質・能力を主に育成しようとしているのか）を踏まえ、基本的な教材を定めるとともに、それ以外の教材については趣旨に合致するかどうかで判断することが重要であるという整理とする。
 - 例えば、論理的思考力の育成に重きを置く科目で扱う教材では、論説文や批評文などを中心としつつ、科目の趣旨に合致する活用の仕方であれば文学作品等を扱うことも可能とする。多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力の育成に重きを置く科目も同様に、主に文学作品や古典を中心としつつ、それらに関する論説文や批評文等を扱うことも可能とする。
 - 実用文については、メディアリテラシーの観点も踏まえ、「話や文章の機能」に即して指導に適切な文章と判断されるもの（報道文や広告、それらに関する論説文や批評文など）を中心に扱うことを明記する方向とする。

（2）内容の精選について

- 〔知識及び技能〕については、現行の内容を、育成を目指す資質・能力との関係から見直し、二つの側面に即して重点化して整理する。その際、内容の重なりや指導上の重点が見えにくい部分は、必要に応じて分割・統合し、個別の知識・技能を網羅的・細切れに扱うのではなく、各事項の役割や系統性が明確になるよう内容を精選する。
- 〔思考力、判断力、表現力等〕については、現行の領域別の学習過程や言語活動例を、話や文章が社会的な文脈の中で果たす機能という観点から見直し、「話や文章の機能」を軸に重点化して整理する。これにより、領域ごとに細分化されていた学習内容の重なりを整理し、各学年・各領域において重点的に指導すべき内容が明確になるよう精選する。

科目の名称について

【第9、10回WGでの主なご意見】

- ・「現代の国語（仮称）」の別案：「言語生活」「言語運用」
- ・「論説と批評（仮称）」の別案：「論理と批評」
- ・「文学と叙述（仮称）」の別案：「文学と創作」「文学と創造」「文学と鑑賞」等
- ・「古典と文化（仮称）」の別案：「古典と玩味」「古典と鑑賞」「古典と享受」等

【必履修科目・選択科目（標準）】

- 必履修科目については、現行の枠組みを維持しつつ学習内容を明確にすることで学びの充実を図るものであり、名称変更を伴う内容の変更ではないため、現行の名称を継承し、選択科目との系統性を示すため「Ⅰ」を付すこととする。

「現代の国語Ⅰ」（仮称）

実社会で必要な論理的思考力やコミュニケーション能力の育成に主眼を置く科目であり、現代社会で必要な国語を学ぶことを表す。

「言語文化Ⅰ」（仮称）

上代から近現代の文章を通して我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を身に付け、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力の育成に主眼を置く科目であり、言語文化を学ぶことを表す。

- 選択科目（標準）については、必履修の2科目をそれぞれ深化させて学ぶ科目であるため、その系統性を明確に示す観点から、必履修科目の名称に「Ⅱ」を付した名称とする。

「現代の国語Ⅱ」（仮称） 「現代の国語Ⅰ」を深化させた科目であることを表す。

「言語文化Ⅱ」（仮称） 「言語文化Ⅰ」を深化させた科目であることを表す。

【選択科目（発展）】

- 選択科目（発展）については、各科目の領域の学びを象徴的に表す名称とする。

「論説と批評」（仮称）（「書くこと」「読むこと」の2領域）

「読むこと」の領域において主として論説等を読み、「書くこと」の領域においては批評等を行うことを表す。

「対話と表現」（仮称）（「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域）

「話すこと・聞くこと」の領域においては対話等を、「書くこと」の領域においては表現等を行うことを表す。

「文学と創作」（仮称）（「書くこと」「読むこと」の2領域）

「読むこと」の領域において主として文学等を読み、「書くこと」の領域においては創作等を行うことを表す。

「古典と文化」（仮称）（「読むこと」の1領域）

「読むこと」の領域において主として古典を読むことを表し、古典の価値や現代とのつながりを我が国の文化として広く考えていく学びを表す。

各科目で扱う領域について

【第10回WGでのご意見】

- ・ 主に多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力の育成を目指す系統の科目においても、「話すこと・聞くこと」の領域を入れてはどうか。
- ・ 古典を中心に扱う科目においても、「書くこと」の領域を入れてはどうか。

【「話すこと・聞くこと」「書くこと」領域の扱いについて】

- 「話すこと・聞くこと」の領域は、実社会におけるコミュニケーションの基盤となる力として、「現代の国語Ⅰ・Ⅱ（仮称）」において重点的に扱うこととする。
※「言語文化Ⅰ・Ⅱ（仮称）」においては、物語等を読んで感じた感動を、よりよく相手に伝えるために語り方を工夫することで内容の解釈を深めたり、作品の内容や表現、形式などについて討論することで作品理解を深めたりするなど、「現代の国語Ⅰ・Ⅱ（仮称）」で身に付けた伝え合う力を活用して学びを深める学習も考えられる。
- 古典を中心に扱う科目（選択科目（発展）の「古典と文化」（仮称）を想定）では、古典を主体的に読むことで、作品に表れたものの見方・感じ方や価値観、表現の特色などを捉えて古典の価値を見出し、自分の考えを広げ深めることに重点を置いているため、「読むこと」の領域のみを扱うこととする。
※仮に古典を中心に扱う科目で「書くこと」の領域を設けると、例えば、古語を使い古典文法に従って随筆を書くことができるようになること等を目指す学習が考えられる。このような資質・能力は高校段階で育成するものとしてないため、「書くこと」の領域を設けていない。

※補足

- ・ 生徒が資質・能力を身に付けるために、国語科を含む全ての教科等の授業において、話したり、聞いたり、書いたり、読んだりする活動は行われ得るものである。
- ・ 国語科の科目は、どの資質・能力を主に育成するのかわによって分けている。ただし、各科目で育成される資質・能力は分断されるのではなく、科目間で往還させながら高めていくことが重要。

5. 学習・指導・評価の改善充実の在り方①

(1) 学習の基盤となる資質・能力「言語能力」の育成の在り方

補足イメージ⑩⑪参照

〈教科等横断的な言語能力の育成〉

- 教科等横断的な言語能力の育成に向けては、次の3つの柱を一体的に充実させていくことが重要である。

- ①言語環境の整備
- ②国語科を要として各教科等の特質に応じて、言語能力を高めるための学習活動の充実
- ③読書活動の充実

〈人間ならではの言語能力の育成〉

- AIによる言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を育成することが必要である。

〈教科書等を読み解く力の確実な育成〉

- 各教科等の学習活動の充実を支える「教科書等を読み解く力」の確実な育成に向けては、各教科固有の言語能力に加え、各教科固有の用語や概念の理解などとの相乗効果を図ることが重要である。
- ※「教科書等を読み解く力」の育成には、各教科固有の専門的な用語や教科書の構造等の理解、既存の知識等も重要であることに留意
- ※外国籍・特別な支援を要するなど、多様な背景をもつ児童生徒が学びやすいよう学校全体で配慮・支援する視点を重視
- ※中等教育では、学習する内容が高度化・抽象化し、各教科等固有の見方・考え方や語彙、表現方法・様式等を用いた思考・判断・表現が不可欠となることから、各教科等の内容と関連付けた指導が一層重要になると考えられる。(数と式による証明、音楽や美術の専門的な用語を用いた鑑賞、理科での専門的な実験の記録や報告、道徳的価値の理解を深める議論など)

- これらのことから、国語科の学びと各教科等の学習活動の充実との関係を整理することにより、教育課程全体を通じた言語能力の育成を一層推進する。

(2) ICTの活用等

- 国語科においては、現在においても、話や文章から取り出した情報や既存の知識、事実等を構造的に整理し、その関係を明確にして考えをまとめたり深めたりする学習に取り組んでいる。一方で、生成AIの飛躍的な発展に伴い、日々の情報収集もインターネットやSNSが中心となり、報道を含む多面的・多角的な情報収集が行われなくなっている。
- このような中、生成AIを含むICTの活用については、発達段階を踏まえつつ、児童生徒が学習の目的に応じて情報や生成AIの出力を比較・吟味し、自ら考え、判断し、表現した内容を自らの言葉で説明し責任を持つことができるようにすることを基本とし、一層効果的に活用することが重要である。
- デジタル学習基盤を支える「コンピュータで文字を書くこと」については、国語科は言語能力を育成する要の教科であることを踏まえ、書く活動の一環として、端末を用いた入力を行うことを内容の取扱いに示す（タイピングを含めた文字入力については、「総合的な学習の時間・情報の領域（仮称）」を中心に学習を行う）。
※ローマ字の学習は現行どおり小学校第3学年で行う。

(3) 書写

- 書写については、デジタル学習基盤の下でタイピング等による文字入力が増える中であっても、文字を正しく認識し、正確に書く力を身に付けるとともに、我が国の文字文化について実感を伴って理解を深める観点は重要であることから、小中学校段階における書写の指導を引き続き重視する。その際、書字能力は全ての学びを支える基礎であり、その確実な定着が不可欠であることから、とりわけ小学校では、手書きによる書写の丁寧な指導を推進する。
- また、文字を手で書いて学ぶことの指導に当たっては、字形や点画、筆順、文字の組立て方などに注意しながら、文字を正しく認識し、整えて書く力を育てるものであることを踏まえる必要がある。その際、未知語や新出漢字の習得、漢字の成り立ちや文字のもつ意味・文化性への関心と関連付けるなど、各学習内容を結び付けて指導することにも留意する。

5. 学習・指導・評価の改善充実の在り方②

(4) 柔軟な教育課程の編成・実施

- 論点整理では、学習内容の学年区分については以下のとおり提言している。
 - ▶ 教科の系統性や発達段階を踏まえた指導内容を確保する役割を果たしており、教科書作成などの観点からも、引き続き一定の記載は必要。
 - ▶ その上で、児童生徒の実態に応じて必要があると判断する場合は、学年区分にとらわれず柔軟に教育課程の編成・実施が可能であることを明確化すべき。
- これを受けた総則・評価特別部会では、以下の方向で検討がされている。
 - ▶ 「想定する指導学年を明示する場合は○学年相当という形で示す」こととし、
 - ▶ 学年区分を示す場合であっても、児童生徒の実態に応じて必要があると学校が判断する場合は、学年区分にとらわれず柔軟に指導が可能である旨を明示的に示す。
- 国語においても、発達段階を踏まえた学年区分は引き続き一定示しつつも、学年を超えた指導時期の前倒し・後ろ倒しを認めることにより、ある程度まとまった時間をつくりだすことが容易になり、その時間で、定着に課題のある内容の学び直しなどを実施することができる。なお、適切な学年区分の示し方や領域等に配当する時数の目安の示し方については、告示文を整理する中で検討する。
- 高等学校については、今般の教育課程の柔軟化の仕組み（単位の倍化、増単・減単をきめ細かく可能とする等）の下で、国語科の諸科目の取扱いについては、多様性の包摂の観点も含め、総則・評価特別部会での議論を踏まえ、告示文での示し方を検討する。

(5) 学習評価の在り方

補足イメージ⑩参照

- 〔思考力、判断力、表現力等〕の事項については、児童生徒が学習に取り組んでいる過程では、関連する〔知識及び技能〕の学習状況に留意しつつ、形成的評価を行い、児童生徒の学習改善等に生かすことが重要である。その上で、児童生徒が単元の学習の成果として思考・判断・表現しているパフォーマンスについて、〔思考力、判断力、表現力等〕の事項の要素が総合的に発揮されているかどうかという視点から、総括的評価を行うことなどが考えられる。
 - 〔知識及び技能〕(1)運用しながら深める事項については、各領域の単元における思考・判断・表現の過程で活用できているかという点から形成的評価を行うことに重点を置き、その単元や別の単元での学習の改善に生かせるようにすることが重要である。その上で、それらの複数の単元での学習を経た後、総括的評価を行う場面を設けることなどが考えられる。
 - 〔知識及び技能〕(2) 教養として深める事項については、それぞれの知識や技能を機械的に習得する学習に偏らないようにし、試行錯誤を伴う学習活動や、実際にその知識や技能を使う場面を想定した学習活動を設定し、学習活動の過程で形成的評価を行い、児童生徒に対して理解の深まりを促すことが重要である。その上で、単元の終末や学期末等に評価場面を設け、総括的評価を行うことなどが考えられる。
- ※上記は、基本的な考え方のイメージであり、総括的な評価の実施の仕方については、児童生徒の発達段階や学校の実態に応じて様々な実践上の工夫が考えられる。

国語科における目標や内容の全体構造（改訂後のイメージ）

目標

①

国語科で育成したい資質・能力の趣旨を学校種共通で端的に示す

① 目標の柱書 (p.15、16参照)

②

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
資質・能力の柱ごとの目標（「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」）は、発達段階に応じて学校種ごとに系統的に示す		

② 資質・能力の柱ごとの目標 (p.15、16参照)

③ 見方・考え方 (p.15参照)

④ 高次の資質・能力 (p.17～25参照)

⑤ 個別の資質・能力 (p.17～23参照)

※「B書くこと」、「C読むこと」の領域も同様に、「思考力、判断力、表現力等」と「知識及び技能(1)」の内容をひとまとまりとして示し、その下に「知識及び技能(2)」の内容を示す。
 ※話や文章の機能、事項のまとまりのそれぞれの名称は仮称。

(見方・考え方)

③

●●（当該教科で扱う事象や対象）を●●（当該教科固有の物事を捉える視点）の視点から捉え（に着目して捉え）、●●（当該教科固有の考え方や判断の仕方）すること。

内容

④

思考力、判断力、表現力等	A話すこと・聞くこと 思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能」ごとに位置付けた思考・判断・表現の力を総合的に発揮している状態を示す
	(1)運用しながら深める事項 知識及び技能に関する統合的な理解 言葉の知識を、相手や状況、目的に応じて使うことで、理解・思考・表現の質が高まることを生徒が理解している状態を示す
知識及び技能	(2)教養として深める事項 知識及び技能に関する統合的な理解 言葉や文字の仕組み、読書、伝統的な言語文化を学ぶ意義や価値を生徒が理解している状態を示す

⑤

	第1学年相当	第2学年相当	第3学年相当
話や文章の機能 (p.26参照)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	
	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	
	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	
事項のまとまり (p.30、31参照)	・XXXXXXXX		
	・XXXXXXXX		
⋮			
事項のまとまり (p.30、31参照)	・XXXXXXXX	・XXXXXXXX	
	・XXXXXXXX		
	・XXXXXXXX		

※目標（①②）、見方・考え方（③）、内容（④⑤）については、WGでの議論を踏まえ、告示までに文部科学省において引き続き一層分かりやすいものになるよう検討する。

国語科における教科の目標、見方・考え方（案）

目標

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
柱書	国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。		
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に触れながら親しむことができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語で筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程に気を付けながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ② 言語感覚を育み、我が国の言語文化に触れ、国語を尊重する態度を養う。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活に必要な国語の特質を理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化に親しみながら理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語で論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を養い、社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を確かめながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ② 言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重する態度を養う。
高等学校	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化を理解できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語で論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で、互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ② 言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

見方・考え方

- 自分や他者の言葉を、意味や働き、使い方や表現の意図に着目して多面的・多角的に吟味し、多様な立場や考えを理解して、丁寧に言葉を選び、よりよく伝え合うこと

国語科の目標（※小中高共通）

柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。

	知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
	生涯にわたる社会生活に必要な国語の特質を深く理解し適切に使うとともに、我が国の言語文化を理解できるようにする。	国語で論理的に考える力、深く共感したり豊かに想像したりする力、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。
現代の国語Ⅰ (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使えるようにする。	国語で論理的に考える力や、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高める。	①様々な話や文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、理解や考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。
現代の国語Ⅱ (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、効果的に使えるようにする。	国語で論理的に考える力や、生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を高め、発揮する。	同上
論説と批評 (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 学術的な学びの基礎に係る事柄に関する国語の知識や技能を身に付け、効果的に使えるようにする。	国語で論理的に考える力を高め、他者や自己の思考の妥当性を吟味する力を養う。	①様々な文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、理解や考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。
対話と表現 (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、話すこと・聞くこと、書くことを通して、次のとおり育成することを目指す。 多様な他者との多角的な関わりに必要な国語の知識や技能を身に付け、効果的に使えるようにする。	生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で互いの立場や考えを尊重しながら伝え合う力を発揮し、様々な媒体を通して言葉で他者と協働する力を養う。	①様々な話や文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、自分の考えや表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。
言語文化Ⅰ (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、適切に使うとともに、我が国の言語文化を広く理解できるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を養う。	①様々な文章に触れて考えたり感じたりしたことを自ら進んで表現し、理解や解釈、考え、表現の工夫を伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。
言語文化Ⅱ (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、効果的に使うとともに、我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力や、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を高める。	同上
文学と創作 (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、書くこと、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 創作に係る事柄に関する国語の知識や技能を身に付け、効果的に使えるようにする。	国語で深く共感したり豊かに想像したりする力を高め、創造的に考える力を養う。	同上
古典と文化 (仮称)	目標の柱書：国語で理解し、考え、表現する資質・能力について、読むことを通して、次のとおり育成することを目指す。 古典の文章の理解や表現に関する国語の知識や技能を身に付け、使うとともに、我が国の言語文化を深く理解できるようにする。	先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で古典の意義や価値について考える力を高め、現代における価値を創出する力を養う。	①様々な文章に触れて自ら進んで考え、理解や解釈、考えを伝え合う過程を吟味しながら、学びの質を高めようとする態度を養う。 ②言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、国語を尊重する態度を養う。

資質・能力全体構造（案）

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
の思判表と一体的に示す

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごとの
の思判表と一体的に示す

		A 話すこと・聞くこと		
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事実や知識の整理と理解／ 考えや主張の理由付けと吟味
協働による深化や合意				・尋ねたり応答したり、話し合いの進行を工夫したりするなどして、互いの発言を関連付けて考えをまとめる
話や文章の構造				・話の構成や展開、話の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
表現の仕方				・音節と文字との関係、アクセントや抑揚、間の取り方 ・比喻や反復などの表現の工夫 ・引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方
		情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方	
		情報の信頼性	・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方	

		B 書くこと		
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事実や知識の整理と理解
考えや主張の理由付けと吟味				・理由に基づいて意見を述べる文章を書く
思いや経験の表出と想像				・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章を書く
話や文章の構造				・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
		表現の仕方	・比喻や反復などの表現の工夫 ・引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方	
		情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方	
		情報の信頼性	・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方	

資質・能力全体構造（案）

		C 読むこと			
小学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	話や文章の機能	内容項目例	
			事実や知識の整理と理解／考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ	
			思いや経験の表出と想像	・文学的な文章の内容を理解して自分の考えをもつ	
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	統合的な理解 日常生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事項のまとめり	内容項目例
				音読	・音読、朗読
				話や文章の構造	・文章の構成や展開、文章の種類とその特徴 ・段落の役割、場面の設定
				表現の仕方	・音節と文字との関係 ・比喻や反復などの表現の工夫、引用の仕方 ・描写の仕方、図表の用い方
				情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
	情報の信頼性	・発信元や発信時期の確認、初歩的な情報の信頼性の確かめ方			

領域ごとを示す

共通の内容を、領域ごとの
思判表と一体的に示す

小学校	知識及び技能	(2)教養として深める事項	統合的な理解	事項のまとめり	内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値に気付くことが、自己の形成、日常生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字を読む、漢字を書く、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
			伝統的な言語文化	・伝統的な言語文化に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方	
			書写	・文字の書き方、姿勢、筆記具の持ち方、選び方、筆順 ・文字文化を親しむ	
			読書	・選書の仕方、読書の意義や効用の実感 ・読書計画の立て方、読書記録の取り方	

共通の内容を、各領域とは別に
全体を支える形で示す

A 話すこと・聞くこと

		A 話すこと・聞くこと		
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	総合的な理解	事項のまとめ
総合的な発揮			話や文章の機能	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説などをする
			考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説、主張などを聞いて自分の考えをもつ
			協働による深化や合意	・根拠に基づいて主張などを述べる
				・進行を工夫し互いの発言を関連付けて考えをまとめる
		社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文の成分の順序や照応など文の構成 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
			表現の仕方	・分かりやすく明瞭な話し方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む） ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

B 書くこと

		B 書くこと		
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	総合的な理解	事項のまとめ
総合的な発揮			話や文章の機能	内容項目例
		相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。	事実や知識の整理と理解	・説明や解説などの文章を書く
			考えや主張の理由付けと吟味	・根拠に基づいて主張する文章などを書く
			思いや経験の表出と想像	・経験や想像したことを基に思いや感動を伝える文章などを書く
		社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文の成分の順序や照応など文の構成 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む） ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
			情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

		C 読むこと			
中学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	話や文章の機能	内容項目例	
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ	
			考えや主張の理由付けと吟味	・論説などの文章の内容を理解して自分の考えをもつ	
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	統合的な理解 社会生活に必要な言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事項のまとめ	内容項目例
				話や文章の構造	・文の成分の順序や照応など文の構成 ・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
				表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果（古典等の一節の引用を含む） ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表の用い方や効果
				情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
				情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方

領域ごとに示す

共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

中学校	知識及び技能	(2)教養として深める事項	統合的な理解	事項のまとめ	内容項目例
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・書き言葉と話し言葉 ・漢字の読み方・書き方、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
			伝統的な言語文化	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむ ・古典に表れたものの見方や考え方	
			書写	・楷書や行書の書き方 ・文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書く	
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書	

共通の内容を、各領域とは別に全体を支える形で示す

資質・能力の全体構造 (案)

		A 話すこと・聞くこと			
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	話や文章の機能	内容項目例	
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説などをする	
			考えや主張の理由付けと吟味	・説明や解説、主張などを聞き、質問したり反論したりする ・根拠に基づいて意見や主張を述べる	
			協働による深化や合意	・実社会の中から話題を決め、話し合いの種類や目的に応じて結論の出し方を工夫する ・論点を共有し、考えを広げたり深めたりする	
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	統合的な理解	事項のまとめり	内容項目例
			実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
				表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
				情報と情報との関係	・情報と情報との関係・情報の整理
情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方				

領域ごとに示す
共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

		B 書くこと			
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的に伝えることができる。	話や文章の機能	内容項目例	
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説を述べる文章を書く	
			考えや主張の理由付けと吟味	・意見や考えを論述する	
			統合的な理解	事項のまとめり	内容項目例
	知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
				表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
				情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理
				情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方

領域ごとに示す
共通の内容を、領域ごと
の思判表と一体的に示す

資質・能力の全体構造 (案)

		C 読むこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	話や文章の機能	内容項目例
			事実や知識の整理と理解	・説明や解説が述べられている文章の内容を理解して、自分の考えをもつ
	知識及び技能 (1)運用しながら深める事項	統合的な理解 実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	事項のまとめり	内容項目例
			話や文章の構造	・文、話、文章の構成や特徴 ・段落の構造
			表現の仕方	・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・図表の用い方や効果
			情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理
	情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方		

領域ごとに示す
共通の内容を、領域ごとに示す
の
思
判
表
と
一
体
的
に
示
す

高等学校	知識及び技能 (2)教養として深める事項	統合的な理解 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	事項のまとめり	内容項目例
			言葉のまきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化
			読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

共通の内容を、各領域とは別に全体を支える形で示す

資質・能力の全体構造（案）

			A 書くこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> 自分の知識や経験を基に、思いや経験、想像したことを伝える文章を書く
			相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、思いを感性豊かに伝えることができる。	思いや経験の表出と想像	
知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	統合的な理解	事項のまとまり	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> 文、話、文章の構成や特徴 場面の設定 文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 表現の技法の種類とその特徴 情景や心情、行動などの描写の仕方
			我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造 表現の仕方	
			B 読むこと		
高等学校	思考力・判断力・表現力等	総合的な発揮	話や文章の機能	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> 経験や想像したこと、感じたことを表した文章を読み、自分の考えをもつ 古典としての古文や漢文、我が国の伝統や文化に関連する文章を読み、我が国の言語文化について自分の考えをもつ
			状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。	伝統的な言語文化の継承と創造	
知識及び技能	(1)運用しながら深める事項	統合的な理解	事項のまとまり	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> 文、話、文章の構成や特徴 場面の設定 文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 表現の技法の種類とその特徴 情景や心情、行動などの描写の仕方 文語のきまりや訓読、古典特有の表現
			我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。	話や文章の構造 表現の仕方 古典を読むための言葉のきまり	
高等学校	知識及び技能	(2)教養として深める事項	事項のまとまり	内容項目例	<ul style="list-style-type: none"> 言語が共通にもつ言葉の働き 話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 漢字の読みと書き 語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにする 敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い 時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化 我が国の文化と外国の文化との関係 我が国の文化・言語文化の特質 作品の歴史的・文化的背景 伝統的な言語文化に親しむ 選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書
			幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	言葉のきまりや使い方	
			伝統的な言語文化	読書	

領域ごとに示す
領域ごとの思判表と
領域ごとに示す
領域ごとの思判表と
領域ごとに示す
領域ごとの思判表と
各領域とは別に全体を支える形で示す

※ 具体的な文言は今後告示文を検討する中で引き続き精査

		話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと
現代の国語Ⅰ(仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。
	知識及び技能の統合的な理解	事項(1) 実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
現代の国語Ⅱ(仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いを効果的に伝えとともに、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えを論理的かつ効果的に伝えることができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解したことを踏まえて自分の考えを吟味し再考することができる。
	知識及び技能の統合的な理解	事項(1) 実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	実社会で必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
論説と批評(仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		相手や状況、目的に応じて、考えや意見を効果的に論述することができる。	状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、他者の思考の妥当性を吟味し、自分の考えを省察することができる。
	知識及び技能の統合的な理解		学術的な学びの基礎に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	学術的な学びの基礎に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、状況や目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。
対話と表現(仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、効果的に対話し他者と協働することができる。	相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いを効果的に表現することができる。	
	知識及び技能の統合的な理解	事項(1) 多様な他者との多角的な関わりが必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。 事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが、自己の形成、社会生活の向上、文化の創造と継承につながることを理解している。	多様な他者との多角的な関わりが必要となる言葉の様々な意味や働き、使い方等を身に付け、相手や状況、目的に応じて使うことにより、理解や思考、表現の質が高まることを理解している。(再掲)	

※ 具体的な文言は今後告示文を検討する中で引き続き精査

		書くこと	読むこと
言語文化Ⅰ (仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	相手や状況，目的に応じて，文章の書き方を工夫することにより， 思いを感性豊かに 伝えることができる。	状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを 広げ深める ことができる。
	知識及び技能の総合的な理解	<p>事項(1) 我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。</p> <p>事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。</p>	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
言語文化Ⅱ (仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	相手や状況，目的に応じて，文章の書き方を工夫することにより， 思いを感性豊かかつ効果的に 伝えることができる。	状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて 批評し ，自分の考えを 広げ深める ことができる。
	知識及び技能の総合的な理解	<p>事項(1) 我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。</p> <p>事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。</p>	我が国の言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
文学と創作 (仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮	相手や状況，目的に応じて， 思いをもとに言葉で豊かに創作 することができる。	状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて 批評し ，自分の考えを 吟味し再考 することができる。
	知識及び技能の総合的な理解	<p>事項(1) 創作に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，相手や状況，目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。</p> <p>事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。</p>	創作に係る事柄に関する言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。
古典と文化 (仮称)	思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮		状況や目的に応じて，文章の読み方を工夫することにより，理解や解釈したことを踏まえて 古典の価値を見出し ，自分の考えを 広げ深める ことができる。
	知識及び技能の総合的な理解		<p>事項(1) 我が国の伝統的な言語文化に関わる言葉の様々な意味や働き，使い方等を身に付け，状況や目的に応じて使うことにより，理解や思考，表現の質が高まることを理解している。</p> <p>事項(2) 幅広く多様な言葉に触れ蓄えながら我が国の言語文化のもつ意義や価値を深く捉えることが，自己の形成，社会生活の向上，文化の創造と継承につながることを理解している。</p>

「話や文章の機能」による整理イメージ

- 高次の資質・能力である「思考力、判断力、表現力等の総合的な発揮」の育成に当たっては、児童生徒が複数の単元で出会う様々な話や文章を、社会的な文脈の中で果たす主な機能という観点から捉えられるようにすることが重要。
- 話や文章の種類を整理し、社会的な文脈の中で果たす主な機能という観点から捉え直し、「話や文章の機能」として整理する。

話や文章の機能	社会的な文脈の中で果たす主な機能	話や文章の種類（例）	話や文章の機能を踏まえた思考・判断・表現の要素（イメージ）
事実や知識の整理と理解 （仮称）	事物や事象の構造・しくみ・意味・特徴・因果関係などを整理し、筋道立てて分かりやすく示すことを通して、理解を促す機能	・説明や解説をする話（紹介、報告、説明、解説など） ・説明や解説をする文章（報告文、記録文、説明文、解説文など）	・相手や目的に応じて重要な情報を見極めて関係を整理し、構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・内容を理解し、既存の知識や経験と関係付けながら意味付けたり考えたりする。
考えや主張の理由付けと吟味 （仮称）	考えや主張を、理由や根拠と結び付けて筋道立てて示すことを通して、判断や納得を促し、必要に応じて考えや行動に働きかける機能	・主張や提案を述べる話（主張、提案など） ・意見、主張や提案を述べる文章（論説、批評など）	・考えや主張を支える理由や根拠を組み立て、相手や目的に応じて構成や表現の仕方を工夫して伝える。 ・考えや主張と理由・根拠との関係を捉え、その妥当性を判断し、納得したり批判的に検討したりする。
思いや経験の表出と想像 （仮称）	経験や想像した出来事・情景、思いや心情などを多様な表現の工夫によって描き出すことを通して、想像し、感じたり考えたりすることを促す機能	・経験や想像したこと、感じたことを表す文章（詩、短歌、俳句、随筆、物語、小説など）	・経験や思い、想像した世界を、目的に応じて、構成、語り方、描写、技法などを工夫して描き出す。 ・目的に応じて、表現された内容を想像し、意味付けたり考えたりするとともに、解釈や評価を深める。
協働による深化や合意 （仮称）	他者と協働して互いの考えや情報を出し合い、吟味・調整することを通して、理解や考えを深め、必要に応じて合意形成や意思決定に向かうことを促す機能	・質疑応答、議論や討論などの話し合い	・自分の考えや情報を伝え合うとともに、他者とやり取りしながら、理解や考えを修正・補強して深める。 ・互いの考えの共通点や相違点を捉えて整理し、折り合いを付けたり方向付けたりする。
伝統的な言語文化の継承と創造 （仮称）	時代を越えて先人の知や洗練された言語感覚を伝えることを通して、その重要性を理解し、意義や価値を現代に生かすことを促す機能	・近世までに書かれた文章（古文・漢文など）	・作品の内容や解釈を踏まえ、自分の考えを深め、伝統的な言語文化について自分の考えをもつ。 ・古典の意義や価値を理解し、現代における新たな価値の創出について考える。

※「話や文章の種類（例）」は、現行学習指導要領の〔思考力、判断力、表現力等〕の各領域の(2)で示している言語活動例を基に概略のみを示している。

※実際の話や文章は、それぞれが上記の機能を複合的に果たしている場合も考えられる。一方、ここでの「話や文章の機能」は、児童生徒が学習で扱う話や文章について、その主な機能を示すものであり、これらの「話や文章の機能」と関連付けながら学習指導要領の内容項目を整理・構造化することをねらいとしている。

「話や文章の機能」と事項のイメージの関係について

- 「話や文章の機能」ごとに、「①話や文章の種類」、「②学習過程で働かせる資質・能力」の要素に基づき、事項を作成することを想定している（※中学校2年相当を例示）。

話すこと・聞くこと 〈話すこと〉

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		考えの形成	表現・推敲
事実や知識の整理と理解 (仮称)	説明や解説をする	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中から話題を決め、伝えたい事実や事柄を整理する 整理した事実や事柄の意味や関係が明確になるように論理的な構成や展開を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 聞き手が理解できるように表現を工夫する 聞き手の反応に応じて表現を調整する
考えや主張の理由付けと吟味 (仮称)	主張や提案を述べる	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中から題材を決め、自分の主張や提案を明確にする 自分の主張や提案と根拠、異なる立場との違いが明確になるように論理的な構成や展開を考える 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や状況に応じて聞き手が納得できるように表現を工夫する 聞き手の反応に応じて表現を調整する

〈聞くこと〉

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		構造と内容の理解・解釈	考えの形成
事実や知識の整理と理解 (仮称)	説明や解説をする	<ul style="list-style-type: none"> 情報同士の関連、論理の展開などに注意して記録したり質問したりしながら話の内容を理解する 	<ul style="list-style-type: none"> 話の内容に対する自分の考えを広げたり深めたりする 論理の展開や表現の仕方を評価する
考えや主張の理由付けと吟味 (仮称)	主張や提案を述べる		

〈話し合うこと〉

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素
		※「話し合うこと」は、「話すこと」と「聞くこと」の学習過程がほぼ同時に往還していると考えられるため、詳細な学習過程は示していない。
協働による深化や合意 (仮称)	合意形成に向けた話し合い	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中から話題を決める。 異なる立場や意見の背景を理解しながら合意形成に向けて話し合いを進める。 考えをまとめたり広げたり深めたりする。

※表中の「①話や文章の種類」「②学習過程で働かせる資質・能力の要素」は現時点でのイメージであり、告示文を整理する中で検討。

※学校種・学年ごとに示す「話や文章の種類」は、対象とする話題や題材等の内容が発達段階に適したものとなるように事項の文言で示すことや「指導計画の作成と内容の取扱い」等で例示することが考えられる。

書くこと

読むこと

話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素		話や文章の機能	①話や文章の種類	②学習過程で働かせる資質・能力の要素	
		考えの形成	表現・推敲			構造と内容の理解・解釈	考えの形成
事実や知識の整理と理解 (仮称)	説明や解説をする文章	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中から題材を決め、伝えたい事実や事柄を整理する 整理した事実や事柄の意味や関係が明確になるように論理的な構成や展開を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手が理解できるように表現を工夫して記述する 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える 	事実や知識の整理と理解 (仮称)	説明や解説が述べられている複数の文章	<ul style="list-style-type: none"> 文章の構成を踏まえ、それぞれの要旨を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの文章の内容を関連付けながら自分の考えを広げたり深めたりする 論理の展開や表現の仕方を評価する
考えや主張の理由付けと吟味 (仮称)	意見を述べる文章	<ul style="list-style-type: none"> 社会生活の中から題材を決め、自分の意見を明確にする 自分の意見と根拠、異なる立場との違いが明確になるように論理的な構成や展開を工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手が納得できるように表現を工夫して記述する 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える 	考えや主張の理由付けと吟味 (仮称)	主張や提案が述べられている文章	<ul style="list-style-type: none"> 論理の展開や表現の仕方を捉える 	<ul style="list-style-type: none"> 主張や提案の信頼性や妥当性について考える 論理の展開や表現の仕方を評価する
思いや経験の表出と想像 (仮称)	経験や想像したこと、感じたことを表す文章	<ul style="list-style-type: none"> 自分が伝えたい思いや経験、想像したことを明確にする 内容を効果的に伝えるために場面の展開や構成などを工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 読み手が実感をもって想像できるように表現を工夫して記述する 相手や状況、目的に応じた表現になるように整える 	思いや経験の表出と想像 (仮称)	経験や想像したこと、感じたことを表す文章	<ul style="list-style-type: none"> 場面の展開と関連付けて登場人物の相互関係、心情の変化などを捉える 	<ul style="list-style-type: none"> 人物や書き手のものの見方や考え方について考える 話の展開や表現の仕方を評価する

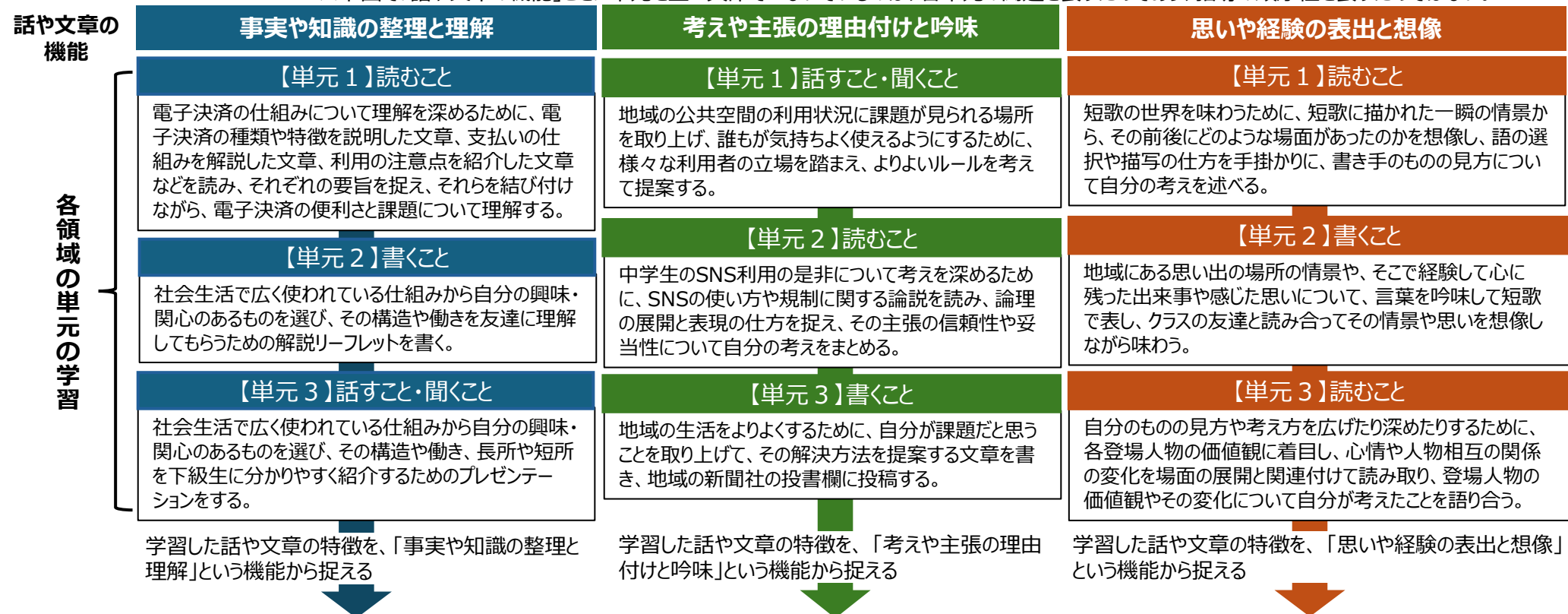
※表中の「①話や文章の種類」「②学習過程で働かせる資質・能力の要素」は現時点でのイメージであり、告示文を整理する中で検討。

※学校種・学年ごとに示す「話や文章の種類」は、対象とする話題や題材等の内容が発達段階に適したものとなるように事項の文言で示すことや「指導計画の作成と内容の取扱い」等で例示することが考えられる。

「話や文章の機能（仮称）」と高次の資質・能力との関係のイメージ（中学校第2学年の例）

- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の各領域の学習指導を「話や文章の機能」に応じて相互に関連付けて配列することで、複数の単元の学習で出会う様々な話や文章の特徴について、社会的な文脈の中でどのような機能を果たしているかという観点から捉え、それぞれの機能に応じた思考・判断・表現の力を総合的に高めていくことが期待される。

※下図で「話や文章の機能」ごとに単元を並べ矢印でつないでいるのは、各単元の関連を表すためであり、指導の順序性を表すためではない。



それぞれの「話や文章の機能」に対する認識の深まり

相手や状況、目的に応じて、「話や文章の機能」を踏まえて思考・判断・表現することができる。

- 相手や状況、目的に応じて、話し方・聞き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えるときにも、他者とのやり取りを通じて自分の考えを捉え直し、広げ深めることができる。
- 相手や状況、目的に応じて、文章の書き方を工夫することにより、考えや思いをよりよく伝えることができる。
- 状況や目的に応じて、文章の読み方を工夫することにより、理解や解釈したことを踏まえて自分の考えを広げ深めることができる。

高次の資質・能力
(総合的な発揮)

【知識及び技能】を「事項のまとめ」で整理したイメージ①

- 「事項のまとめ」は、いずれの側面においても、「知識及び技能の統合的な理解」につながる主な性質に応じ、それぞれの内容を構造化して示すために設ける。その際、各側面の「事項のまとめ」は側面①では、各領域の思考・判断・表現の過程で、その知識・技能を、何のために働かせるのかを見えやすくする役割、側面②では、各領域の学習を支える言葉や言語文化に関する基盤的な知識・技能を、どのような意義や価値と結び付けて身に付け、深めていくのかを見えやすくする役割を果たせるように設定することが重要。その際、「事項のまとめ」は、次のような知識・技能の主な性質を示すものとして整理する。 ※事項のまとめについては、告示文を整理する中で検討。

(1) 運用しながら深める事項

事項のまとめ	知識・技能の主な性質（概略）
音読 (小)	「読むこと」：文字や語句を正確に捉え、声に出して流暢に読むことを通して、文や文章の内容を確かに理解するための基盤として働かせる知識・技能
話や文章の構造	「読むこと」「聞くこと」：段落や場面、構成や展開を手掛かりに内容を理解・解釈するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：考えや内容を筋道立てて組み立てるために働かせる知識・技能
表現の仕方	「読むこと」「聞くこと」：文の組立て、語句の選択、描写、表現の技法、引用、図表などの効果を捉えるために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：意味や意図が伝わるようにそれらの表現を工夫するために働かせる知識・技能
情報と情報との関係	「読むこと」「聞くこと」：話や文章に含まれる情報同士の関係を整理して内容を理解するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：根拠と主張、原因と結果、具体と抽象などの関係を明確にして考えを形成するために働かせる知識・技能
情報の信頼性	「読むこと」「聞くこと」：情報の根拠や出典、発信元などを確かめて内容を吟味するために働かせる知識・技能 「書くこと」「話すこと」：信頼できる情報を根拠として用い、妥当な考えや内容を伝えるために働かせる知識・技能
古典を読むための言葉の きまり（高）	「読むこと」：古典作品の解釈や内容理解のために働かせる知識・技能

(2) 教養として深める事項

事項のまとめ	知識・技能の主な性質（概略）
言葉のきまりや使い方	言葉の働き、書き言葉と話し言葉、漢字、語彙、単語の類別や活用、助詞や助動詞などの働き、言葉遣い、時代・地域・世代による言葉の違いなどについて理解し、我が国の言葉がもつ体系性や変化、多様性への理解を深めるとともに、適切で豊かな言語使用の基盤を形成するための知識・技能
伝統的な言語文化	音読するなどして我が国の伝統的な言語文化の世界に親しむとともに、そこに表れたものの見方や考え方について歴史的・文化的背景を踏まえながら理解することを通して、我が国の言語文化の特質や価値を捉えるための知識・技能
読書	自らの興味・関心や目的に応じて本や資料を選び、様々な文章や作品に継続的に親しむとともに、読書経験を通して考えたこと、感じたことなどを伝え合い、読書の意義や効用を実感することを通して、自立的な読書習慣を形成するための知識・技能
書写 (小・中)	姿勢、筆記具の扱い、点画、筆順、字形、文字の配列、楷書・行書などの書き表し方を理解し、読みやすく整った文字を、相手や目的に応じて効果的に書くとともに、文字文化への理解を深めるための知識・技能

(注) ・「音読」は、第2回WGにおける犬塚委員ご発表資料の「読んで理解するプロセス」で示している「文字の同定」や「単語同定」に主に関わり、読むことの思考・判断・表現の過程で繰り返し働かせる知識・技能として小学校段階に設けている。

・「古典を読むための言葉のきまり」は、第5回WGにおいて整理の考え方を検討

・「書写」は、文字の正しい認識や正確な書字の能力の習得に加え、我が国の文字文化に対する実感を伴った理解を発達段階に応じて深めていくという観点からも、引き続き手書きによる知識・技能として小・中学校段階に設けている。

・「話し合うこと」は「話すこと」「聞くこと」の双方の往還であるため、上表では「話すこと」「聞くこと」の双方に含まれるものとする。

※「内容の取扱い」において、(1)の内容については、「必要に応じて、特定の事項を取り上げたりまとめたりして指導するなど、指導の効果を高める工夫に留意すること」、(2)の内容については、「必要に応じて思考・判断・表現の過程で活用できるよう指導するなど、指導の効果を高めること」に留意すべきであることを示す。

- 前頁における整理をもとに、具体的な事項を「事項のまとめ」ごとに分類して構造化したイメージは以下のとおり。

※事項のまとめについては、告示文を整理する中で検討。

【小・中学校段階】

(1) 運用しながら深める事項

事項のまとめ	知識・技能の内容（概略）
音読（小学校のみ）	・音読や朗読（小学校のみ）
話や文章の構造	・話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
表現の仕方	・分かりやすく明瞭な話し方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・文の成分の順序や照応など文の構成 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果、古典の一節などの引用 ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表などの用い方や効果
情報と情報との関係	・情報と情報との関係 ・情報の整理の仕方
情報の信頼性	・情報の信頼性の確かめ方

(2) 教養として深める事項

事項のまとめ	知識・技能の内容（概略）
言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・文字と音声との対応や語の認識、書き言葉のきまり ・漢字の読み方・書き方、漢字の構成 ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにすること（ことわざや慣用句、故事成語などを含む） ・単語の類別、単語の活用、助詞や助動詞などの働き ・敬語の働き、相手や場に応じた言葉遣い ・時代による言葉の違い、地域や世代による言葉の違い
伝統的な言語文化	・音読するなどして言葉の響きや伝統的な言語文化の世界に親しむこと ・古典に表れたものの見方や考え方
書写	・姿勢、筆記具の持ち方、点画や一文字の書き方、筆順、文字の集まりの書き方、楷書や行書の書き方、文字言語の豊かさに触れながら効果的に文字を書くこと
読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

【高等学校（必修）段階】

(1) 運用しながら深める事項

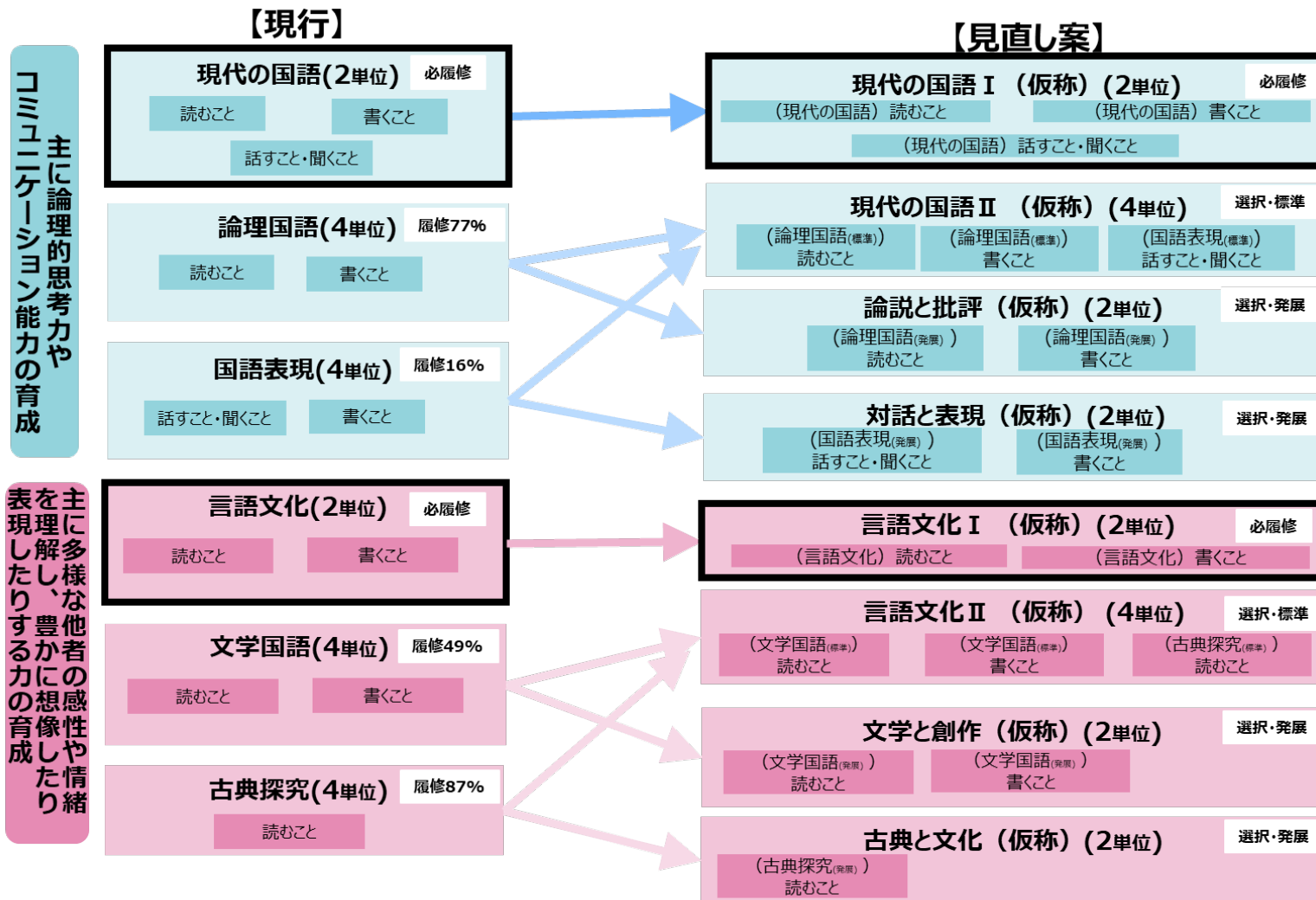
事項のまとめ	知識・技能の内容（概略）
話や文章の構造	・話、文章の構成や特徴 ・段落の構造 ・場面の設定
表現の仕方	・文の効果的な組立て方 ・文脈の中での語句の意味理解、文脈に応じた語句の選択 ・表現の技法の種類とその特徴 ・引用の仕方や効果 ・情景や心情、行動などの描写の仕方 ・図表などの用い方や効果
情報と情報との関係	・情報と情報との様々な関係 ・情報の整理
情報の信頼性	・情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方
古典を読むための言葉のきまり	・文語のきまりや訓読、古典特有の表現

(2) 教養として深める事項

事項のまとめ	知識・技能の内容（概略）
言葉のきまりや使い方	・言語が共通にもつ言葉の働き ・話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色 ・漢字の読みと書き ・語句同士の関係を理解し、語彙を豊かにすること ・敬語を含め広く相手や場に応じた表現や言葉遣い ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化 ・歴史的な文体の変化
伝統的な言語文化	・我が国の文化と外国の文化との関係 ・我が国の文化・言語文化の特質 ・作品の歴史的・文化的背景 ・伝統的な言語文化に親しむこと
読書	・選書の仕方、自らの興味・関心等に応じた自立的な読書

※「図表などの用い方や効果」については、現代の多様なメディア活用の状況に応じて、「写真」「映像」などの要素を含めることも検討することが重要。一方で、他教科等におけるメディア活用に関する内容との関連を踏まえつつ、国語科として必要な内容を精選できるよう慎重な配慮が必要であることにも留意。

- 現行の趣旨は維持しつつ、論理的思考力、情緒・感性の両面について、バランスよく統合的かつ効果的に育成する方向で見直し、必修科目（現代の国語、言語文化）は科目構成を維持しつつ、選択科目の構成や単位数を見直す。
 - 選択科目の中から、標準的な内容項目を抽出し、大多数の生徒の履修を想定した選択科目（現代の国語Ⅱ（仮称）、言語文化Ⅱ（仮称））を設定。
 - その上で、上記「Ⅱ」科目の履修を前提に、より発展的な内容を学ぶ選択科目群（論説と批評（仮称）、対話と表現（仮称）、文学と創作（仮称）、古典と文化（仮称））を設定。



※ 現行の「%」は教科書の必要数を基に推計した履修率

(1) 必履修科目

現代の国語Ⅰ（仮称）（2単位）

実社会に必要な国語の知識・技能を身に付けて適切に使えるようにするとともに論理的に考える力や他者との関わりの中で伝え合う力を育成する。
※現行の必履修科目「現代の国語」の枠組みを維持。

言語文化Ⅰ（仮称）（2単位）

古典や近現代の文章を通して我が国の言語文化に対する幅広い知識や教養を身に付け、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。
※現行の必履修科目「言語文化」の枠組みを維持。

(2) 選択科目

現代の国語Ⅱ（仮称）（4単位）

標準

- 現行の「論理国語」「国語表現」の標準的な内容を組み合わせ、「現代の国語」の内容を深化させて学ぶ科目。
- 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の3領域の資質・能力を「事実や知識の整理と理解」「考えや主張の理由付けと吟味」の「話や文章の機能」に応じて働かせ、論理的に思考することや他者との対話を通して、主として、実社会で必要とされる国語による諸活動に必要な力を育成する。

言語文化Ⅱ（仮称）（4単位）

標準

- 現行の「文学国語」「古典探究」の標準的な内容を組み合わせ、「言語文化」の内容を深化させて学ぶ科目。
- 「書くこと」「読むこと」の2領域の資質・能力を「思いや経験の表出と想像」「伝統的な言語文化の継承と創造」の「話や文章の機能」に応じて働かせ、作品を多様な考えや価値観を踏まえて解釈したり、時代を超えた連続性の中で我が国の言語文化への理解を深めたりすることを通して、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

論説と批評（仮称）（2単位）

発展

- 現行の「論理国語」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」（仮称）の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、批判的に読んだり自らの考えを論述したりすることを通して、主として、論理的に思考し表現する力を育成する。

文学と創作（仮称）（2単位）

発展

- 現行の「文学国語」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」（仮称）の「書くこと」「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 文学作品などを読んでその解釈の多様性について考察したり批評したりすること、独創的な表現を工夫して想像したことや思いを伝えたりすることを通して、様々な事柄を多面的に捉え、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像したり表現したりする力を育成する。

対話と表現（仮称）（2単位）

発展

- 現行の「国語表現」の発展的な内容を再整理し、「現代の国語Ⅱ」（仮称）の「話すこと・聞くこと」「書くこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 多様な他者との関わりの中で文章・口頭の双方において論理的・説得的に対話や表現をしたり、様々な媒体を通して他者との対話を重ね新たな価値を創出したりすることで、主として、多様な他者との多角的なコミュニケーションを図る力を高める。

古典と文化（仮称）（2単位）

発展

- 現行の「古典探究」の発展的な内容を再整理し、「言語文化Ⅱ」（仮称）の「読むこと」を発展させた内容を学ぶ科目。
- 古典を主体的に読み進めたり、我が国の伝統と文化の基盤として古典を学び、自分と自分を取り巻く社会にとっての古典の価値や意義について考えたりすることを通して、主として、多様な他者の感性や情緒を理解し、豊かに想像する力を育成する。

教育課程全体で育む「言語能力」が働くイメージ

- AIによる大量の言語生成が可能となり、それをSNS等で容易に発信可能な時代だからこそ、自らの意思や考えの形成・表現や、他者の経験・感情の理解といった人間ならではの言語能力を重視する。

受信

内容を正確に理解するとともに、発信者の経験・感情・意図を掴みながら、自己の考えを豊かに形成

構造と内容の理解・解釈

- **言語情報の正確な把握**
理解のための方略を工夫しながら、受け取った言語情報の構造や内容を正確に把握

各教科等の特質に応じた指導例：

- 教科書や資料のどこを読めば必要な情報を得られるのかなど各教科固有の文章の読み方を理解させる
- 重要な語句に線を引いたりメモしたり、理解できないときに前に戻って読み直したり質問したり、要点を図式化するなど理解を助ける方略を適用できるようにする

- **自分なりの意味の理解・解釈**
正確な把握と同時に、既存の知識と結びつけたり多様な視点から検討したりしながら、自己にとっての深い意味理解・解釈の形成

各教科等の特質に応じた指導例：

- 黒板をただ写し取るのではなく自分の知っていることや考えたこと他の人の考えなども関連付けて書き加えるなどしてまとめられるようにする
- 学習の要点として理解したことに加えて、一般化して言えそうなこと、具体的な事例、より詳しく知りたいことなどを説明させる

考えの形成

- **発信者の経験・感情等を踏まえた考えの形成**
発信者の経験・感情・思考・意図を推察したり、それらを踏まえ自らの意思をもち考えを形成するなど、自他の経験や感情、意思と結びつける

各教科等の特質に応じた指導例：

- 他者の発言等の要点を理解した上で、発言の背景となる考えや経験、感情について推察できるようにする
- 理解・解釈した内容について、自分はどう思うか、どうしたいかを理由とともに明確にし、相互に交流することを通して自分の考えを補強したり見直したりできるようにする

表現・推敲

- **表現の過程での柔軟な調整**
表現した後や表現の過程においても、他者の受け取りを推察しながら、表現の内容や方法を柔軟に調整し、必要に応じて修正する

各教科等の特質に応じた指導例：

- メモをそのまま読むのではなく、相手の反応を見ながら言葉を選び直したり、非言語的手段を駆使したり、意図が十分に伝わっていないようなら表現した内容でも修正して話せるようにする
- 一度書き上げた文章を読み手の立場から読み直したり、互いに読み合ったりして、目的・場面・相手に応じた表現になるように修正できるようにする

- **表現の前の省察や吟味**
表現しようとする内容や構成・表現形式が、真に表現の目的を達成するか、意図しない結果を招かないか等の視点から省察し、表現を吟味する

各教科等の特質に応じた指導例：

- 表現を構想した後すぐに発表・記述等をするのではなく、表現の受け取り等を想定させ、省察・吟味できるようにする
- 表現しようとする内容や構成・表現形式を相互に参照し、受け取り方や改善の余地などについて検討させる

考えの形成

- **目的・場面・相手を踏まえた内容・構成の検討**
自らの意思をもち考えを形成するとともに、形成した自らの考えや意図が目的に沿ったものか、相手に正確に伝わるかなどの視点から内容や構成、表現形式を検討

各教科等の特質に応じた指導例：

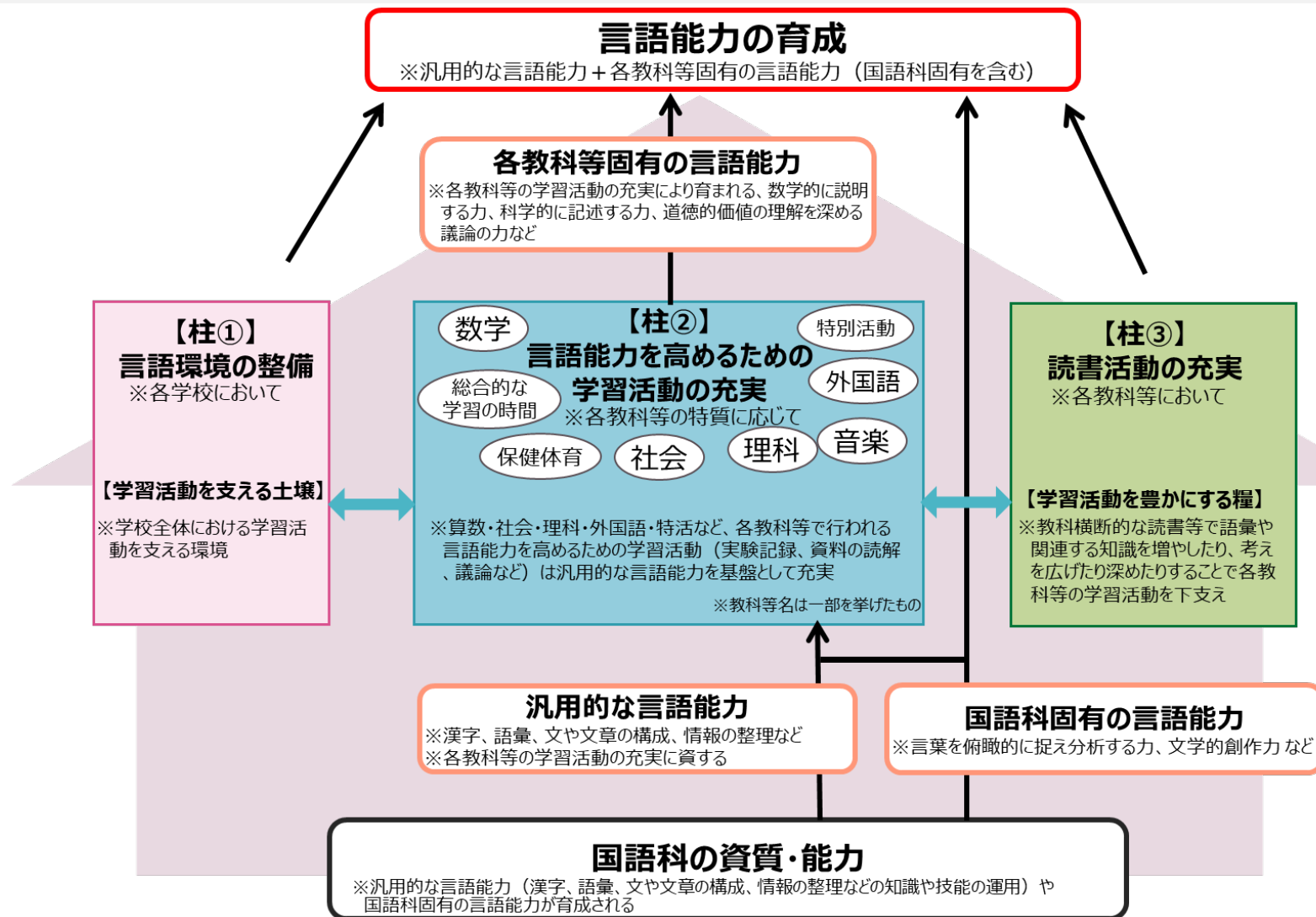
- 作品製作、レポート、発表などの多様な表現活動の中で、自分の考えや意図が目的や条件などを十分に踏まえているかを検討させる
- 目的や場面、相手に応じて言語情報を補足するのに効果的なメディアを選択し活用できるようにする

相手にどう受け取られるかを想像しつつ、自己の考えが伝わるよう工夫しながら豊かに表現

発信

「言語能力」の育成イメージ

- 三つの柱の関係を分かりやすく示すことで、言語能力育成の実効性を高め、言語能力の育成を一層推進。
- 各教科における「教科書等を読み解く力」の確実な育成に向けては、育まれる各教科固有の言語能力に加え、各教科固有の用語や概念の理解などの相乗効果を図ることが重要。
- 国語科の学びと各教科等の学習活動の充実との関係を整理することにより、各教科等における言語能力を高めるための学習活動の充実を一層推進するとともに、言語能力を確実に育成。



- 資質・能力の育成に当たって、効果的かつ過度な負担が生じにくい国語科の評価への見直しを図るため、形成的評価（学習改善等に生かす評価）と総括的評価の意義を踏まえ、実質的な評価場面を精選。

※下記は、基本的な考え方のイメージであり、総括的な評価の実施の仕方については、児童生徒の発達段階や学校の実態に応じて様々な実践上の工夫が考えられる。

(1) 現行の学習評価のイメージ (中学校第2学年を想定)

※国語科は、思考力、判断力、表現力等の系統性が明確で、知識及び技能の内容のまとまりに対応した固有の思考力、判断力、表現力等が想定しにくく、知識及び技能が全体として思考力・判断力・表現力等の深まりを助ける構造をもつことから、下の表では「思・判・表」を「知・技」の上に表示している。

1 学期						1 学期		学年末		
単元 1 (書くこと)						単元 2	単元 3	単元 4	観点別	評定
学習過程	題材の設定, 情報の収集, 内容の検討	構成の検討	考えの形成, 記述	推敲	共有					
事項	(1)ア	(1)イ	(1)ウ	(1)エ	(1)オ			...		
思・判・表		B	B			総括			B	
知・技	(2)イ A								B	3
主態	B								B	

(2) 改訂後の学習評価のイメージ (中学校第2学年を想定)


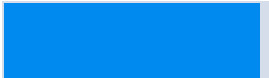
※評定への総括は課程の修了認定を行う学年末のみ行うことが可能であることから、学期ごとの評定への総括は学校の実態に応じて工夫して実施すべきものである。そのため、下の表では、学期・学年末の区別を示していない。

1 学期						1 学期		学年末			
単元 1 (書くこと)						単元 2	単元 3	知技①の 評価場面	単元 4	観点別	評定
学習過程	考えの形成		表現・推敲								
単元の 学習活動 のイメージ	社会生活で広く使われている仕組みから自分の興味・関心のあるものを選び、その構造や働きを友達に理解してもらうための解説リーフレットを書く。										
思・判・表	①	B				A	B	-	-	B	
知・技	②	-				-	-	③ ①の事項 A,B,B...	④ ②の事項 B	B	3
学びに向かう 力・人間性等	総則・評価特別部会において、当該評価期間における「思・判・表」の学習過程全体を通じて、「見取る姿（仮称）」に示す行動の「継続的な発揮」を見取ることができたことをもって「○」をつけ、「思・判・表」の観点別評価を介して、評定に影響を与えるものと整理する方向で検討（参考：総則・評価特別部会資料）										


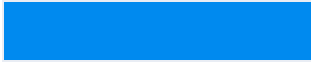



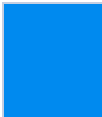
- ① 学習の過程で形成的評価を行いつつ、単元の学習の成果として思考・判断・表現しているパフォーマンス（書き上げた文章など）についての**総括的評価**を実施
- ② 関連する〔知識及び技能〕①の事項について形成的評価を行うことに重点を置き、**総括的評価**は実施しない
- ③ 単元 1～3 の各学習過程で指導した関連する〔知識及び技能〕①の事項についての**総括的評価**を実施
- ④ 〔知識及び技能〕②の事項について、学習活動の過程で形成的評価を行いつつ、単元末に**総括的評価**を実施

言葉で思考を整理したり深めたりすることに課題

○語彙を豊かにしたり、適切な語句を用いて思いや考えを表現すること

	概要	通過率・正答率	調査等
小	思考に関わる語句の理解	 51.7%	R4状況調査
中	表現の効果を考えた描写	 49.8%	R6学力調査

○話や文章の内容や既有的知識等を整理して結び付け、考えをまとめること

	概要	通過率・正答率	調査等
小	情報の整理の仕方の理解・使用	 59.0%	R4状況調査
		 63.2%	R7学力調査
中	文章の内容理解に基づく考えの形成	 40.4%	R4状況調査
		 56.4%	R5学力調査
中	文章の内容と既有的知識を結び付けた考えの形成	 32.5%	R5状況調査
高	文章の内容と背景・他作品との関係を踏まえた深い解釈	 21.9%	R6状況調査

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。









※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は率値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。

目的や場面に応じたコミュニケーションに課題

○目的や場面に応じて適切に話したり聞いたりして考えをまとめること

	概要	通過率・正答率	調査等
小	話の中心を捉えて考えを形成	 57.5%	R4状況調査
	話合いの流れを踏まえた質問	 52.4%	
	立場を明確にして話し合い、考えを形成	 47.8%	R4学力調査
中	話し手の考えと比較して自分の考えを形成	 41.6%	R5状況調査
	話の内容を評価	 42.7%	
	話題や展開を捉え、互いの発言を結び付けて考えを形成	 28.8%	R5状況調査
		 45.1%	R6学力調査
高	話の論理の展開等を評価	 41.1%	R6状況調査

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は率値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。

目的や場面に応じたコミュニケーションに課題

○自分の思いや考えを適切に伝えられるように工夫して文章を書き、整えること

	概要	通過率・正答率	調査等
小	資料を活用した記述の工夫	57.0%	R4状況調査
	簡単な記述と詳細な記述の工夫	27.3%	
	理由・事例を明確にした記述の工夫	61.4%	R7学力調査
	根拠を明確にした記述の工夫	37.5%	R4状況調査
中	資料を適切に引用した記述の工夫	31.2%	R7学力調査
	叙述の仕方を確かめて推敲	49.6%	R5状況調査
	表現の効果を確かめて推敲	40.8%	
	目的や意図に応じた表現かを確かめて推敲	26.7%	
	話の構成や展開の工夫	37.9%	
高	根拠の示し方等を工夫した記述	41.4%	R6状況調査
	文章の種類、構成、展開等を工夫した記述	45.4%	

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。







※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は準値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一つにまとめて表している。

目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考に課題

○目的に応じて文章を読み、自分の考えをもつこと

	概要	通過率・正答率	調査等
小	目的に応じた必要な情報の取り出し	 38.7%	R4状況調査
中	目的に応じて必要な情報に着目して要約	 43.3%	R5状況調査
	目的に応じて複数の情報を整理して解釈	 39.5%	
	観点を明確にして文章の構成を考える	 39.3%	
	文章の構成や表現の仕方を評価	 32.7%	
	文章の構成や表現の仕方を評価	 23.6%	

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

※表中の「状況調査」は「学習指導要領実施状況調査」、「学力調査」は「全国学力・学習状況調査」を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は相対値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象児童生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。また、異なる調査で出題した問題でも趣旨が同じである場合には、「概要」を一括まとめて表している。

目的に応じた文章理解、情報の評価・熟考に課題

○話や文章に含まれる情報の信頼性や情報同士の関係の妥当性を確かめること

	概要	通過率・正答率	調査等
中	意見と根拠の関係の理解	31.4%	R5状況調査
	情報の信頼性の確かめ方の理解・使用	35.3%	
高	目的や意図に応じて情報の妥当性や信頼性を吟味	45.1%	R6状況調査

PISA2018、2022

ある商品について、販売元の企業とオンライン雑誌という異なる立場から発信された複数の課題文を読んで答える問題のうち、次のような問題の正答率が低い。

概要	正答率		調査等
	日本	OECD	
必要な情報を探し出す	56.1%	59.2%	PISA2018
	56.8%	非公表	PISA2022
双方の主張や情報の質と信ぴょう性を評価し対処を説明する	8.9%	27.0%	PISA2018
	14.3%	非公表	PISA2022

※各調査結果は、特に課題見られたものを取り上げている。



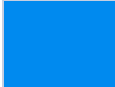
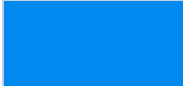
※表中の状況調査は学習指導要領実施状況調査を表す。学力調査は小学校6学年及中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純に比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。

我が国の言語文化を継承・発展させる態度の形成に課題

○我が国の言語文化の特質を理解し、その担い手として継承・発展させる態度

	概要	通過率・正答率	調査等
小	古典の言葉の響きやリズムに親しむ	 56.8%	R4状況調査
中	古典の一節を引用して使用	 40.6%	R5状況調査
高	時代背景等を踏まえた古典の解釈	 21.9%	R6状況調査
	我が国の言語文化としての古典の理解	 35.4%	

※各調査結果は、特に課題が見られたものを取り上げている。

※表中の「状況調査」は学習指導要領実施状況調査を表す。学力調査は小学校6学年及び中学校3学年を対象、状況調査は小学校4学年及び6学年、中学校全学年、高等学校第3学年（必修科目で実施）を対象としている。なお、中学校及び高等学校の状況調査の結果は速報値であり確定値ではない。

※各種調査結果の通過率・正答率はそれぞれの実施年度、対象生徒、問題の内容、出題形式が異なるため、単純比較することはできない。

※「通過率・正答率」は、「概要」に関する問題の平均通過率・平均正答率を表す。